

平成23年度 第3回
しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 次第

平成23年7月8日(金) 19:00～21:00
浦和コミュニティセンター第13集会室

1 開 会

2 議 題

- (1) 「しあわせ倍増プラン2009」取組実績及び達成度等の
評価について（*評価対象事業：39事業）

3 その他

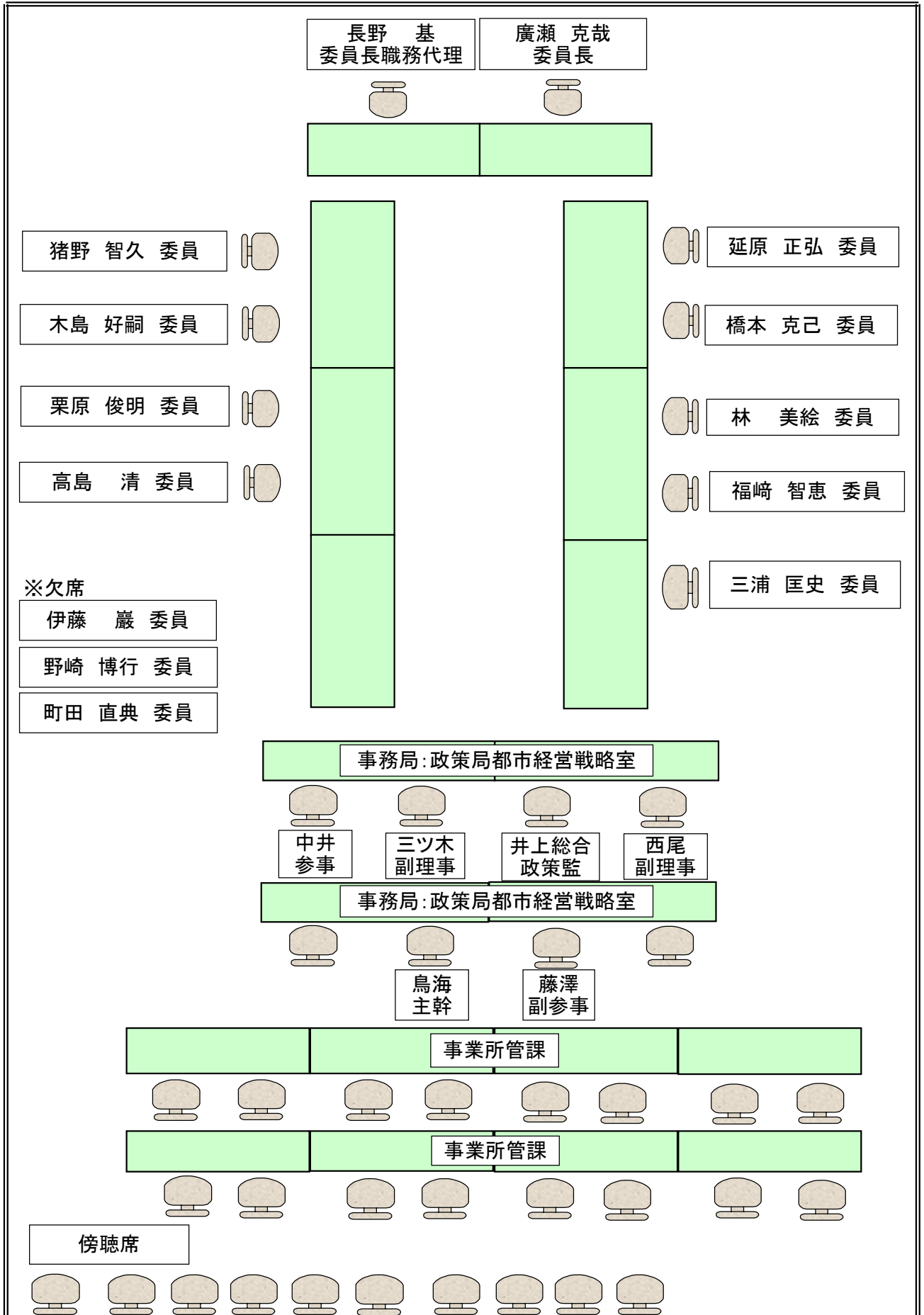
4 閉 会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 座席表
- ・ 所管課職員出席者一覧
- ・ 委員評価取りまとめシート
 - ヒアリング実施7事業（資料1-1）
 - 委員評価取りまとめ一覧（資料1-2）
 - ヒアリング対象外32事業（資料2-1）
 - 委員評価取りまとめ一覧（資料2-2）
- ・ 開催日程別評価事業一覧（資料3）

平成23年度 第3回 しあわせ倍増プラン2009 市民評価委員会 座席表

日時:平成23年7月8日(金) 午後7時～
会場:浦和コミュニティセンター第13集会室



平成23年度 第3回 しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会
所管課職員出席者一覧

宣言・分野	No.	項 目		所 管 課	出席者	
					職 名	氏 名
市民・自治 (1/3)	15	市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。(2年以内)		市民活動支援室	主 査	平井 貴夫
子ども (6/24)	20	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)		(この項目は出席者がいないため、この行は斜線で消されています)		
		20-1	児童相談所の充実	児童相談所	副参事	田辺 龍一
		20-2	保健所の充実	地域保健支援課	参事兼課長	生野 隆子
	22	子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)		子育て企画課	課 長	松井 雅之
				新都心整備対策室	室 長	高橋 誠
	24	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)		(この項目は出席者がいないため、この行は斜線で消されています)		
		24-1	認可保育所	幼児政策課	課 長	鈴木 俊行
24-2		ナーサリールーム・家庭保育室	幼児政策課	課 長	鈴木 俊行	
24-3		放課後児童クラブ	青少年育成課	課 長	菅原 春子	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.2-1（第3回委員会：7月8日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
2 市民・自治	15	「マッチングファンド制度」を創設	2年以内	・24年度末までに市民活動に対する支援22件実施	・助成事業実施件数7件	・★助成事業実施数4件	c	→	4	・助成事業件数が目標に達しないことから、「c」と判定した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	c	→	4	市民活動が何であるか。それらは市民にとって内容が充実し今後の期待する事かを判断し、考えるべきと思う（審査を厳しく）
猪野委員	c	→	4	目標値に到達していない。
木島委員	c	→	4	評価理由：未達
栗原委員	c	→	4	目標は未達ですが、いたずらに交付するのも問題なので、仕方ないと判断します。内部評価にあるとおり、周知徹底が必要なのでは。
高島委員	c	→	4	24年度までに目標を達成するには、今後どう取り組むかが重要。
長野委員	c	→	4	助成事業件数での目標設定のため、その目標件数に比して実施数が少ないことから、「C」とする。なお、投入される市税から見ることも可能で、ここから平成21年度中に議会で議決されている当初予算ベースで見れば、別の評価が可能となる可能性はある。
野崎委員	c	→	4	制度の周知の徹底と、基金の運用内容の確認も確りと行っていただきたい。
延原委員	b	↘	6	*応募9件で4件採用なのでc評価となっているが、応募内容が目標7件に満たないのであれば、大きくマイナス評価の要なしと思う。
橋本委員	c	→	4	NPOや市民活動等資源を活用する為には、より踏み込んだ事業展開が重要。市が協働したいテーマを広げる、他の事業の協働者として考える等工夫が必要なのでは？
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	工程表通り、基本方針を策定し移行準備を行った。
福崎委員	c	→	4	助成に足る事業が応募されるよう、制度の周知に更に力を入れてもらいたい。 今後の事業：広報活動を100ヶ所で行う（イベントでのお知らせ）などの目標も、必要ではないか。
町田委員	c	→	4	基金を設置し、基本的な運営基本方針を定めた結果、4件のみであったという少なさをどこに原因があると考えているのが不明。
三浦委員	c	→	4	助成事業実施件数が伸びない原因の分析は？
委員会評価 (平均点)	c		4.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.2-2 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	20-1	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員(児童相談所の充実)	2年以内	・児童福祉司12人、児童心理司3人、児童精神科医師1人増員 ・継続指導割合3%→20% ・家族再統合割合を75%	①継続指導の割合10% ②家族再統合の割合 全入所児童の25%	①継続指導の割合10.2% ②家族再統合の割合 全入所児童の27.6%	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	親の問題と感じるが解決には、時間と手間が掛かる。(元を正さなければ解決不能)
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由: 目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの人員増が行われ、各種目標値も達成している。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	目標に人員の手当(人数)を入れたほうがより良いと思う。人手がなければ達成不可の部分大。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	↗	8	パーセントなので、分子・分母次第の数値ではあるが、やはり確実に良くなっていると思われる。加点要素として「8」と判断。
廣瀬委員	b	→	7	増員後、活動指標、成果指標ともに目標を達成している。しかし、今後家族再統合割合を同じペースで上げていくことは果たして実現可能な目標設定なのか?
福崎委員	b	↗	8	「相談事業」の役目として大きな二点を把握し目標に据え、取り組んでいる点を評価。今後、この目標数値は上げていくのか。
町田委員	b	→	7	従来からあった活動に加え、家族支援プログラムを具体的に策定し、平成22年度には各資格者増員体制を整えたことで予定どおりと判断します。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。 工程を上回るスピードが望まれる。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.2-3 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	20-2	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員(保健所の充実)	2年以内	・保健師4人増員、選任組織設置 ・育児中、イライラすることが多い親の割合を10%以下に減少(現状13.8%)	①保健師1人増員 ②研修プログラムの策定 ③研修会3回開催	①保健師1人増員 ②体系的な研修プログラムの策定 ③研修会3回開催・延べ128人参加	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	親の問題を職員が解決に向け支援し、その結果を明確にし今後の対策を構わずべきである。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの人員増と研修プログラム策定が行われている。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	* 昨年も指摘したが、基本目標の「イライラする親の割合を10%以下」は削除した方が良い。基本目標にそぐわない。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	活動指標としては工程表通り。研修会の成果についてフォローアップしていく態勢が重要だと考える。
福崎委員	b	→	7	20-1と比べると、活動の影響が評価できるような目標になっていない点が気になる。
町田委員	b	→	7	本当に必要なところへ、必要なサポートを積極的に実施して欲しいと願います。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。工程を上回るスピードが望まれる。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.2-4 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	22	子ども博物館構想	4 年 以 内	・22年度末までに「子ども博物館構想」等として取りまとめ	・子ども博物館構想の推進及びとりまとめ	・★新都市8-1A街区との調整をはかり、子ども博物館基本構想を検討。	c	→	4	・基本構想としてとりまとめることができなかったため、進捗度を「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	c	→	4	基本構想が変更になった状況と認識している。評価できない。
猪野委員	d	→	1	目標から大きく遅れている。医療機関の設置となったが、ということなのか。事業自体を廃止とするのか。
木島委員	d	↘	0	評価理由：本来完成してはならないものが未達ということに加え、進捗がみられない（構想の推進というのは、会議を一度開くことなのか）
栗原委員	c	→	4	今後の財政状況を考え、慎重な判断をお願いします。
高島委員	c	→	4	基本構想としてのとりまとめはいつごろにできるのか？
長野委員	c	→	4	基本構想の策定は実現しなかった。
野崎委員	c	↘	3	工程表通り実行されていないと判断しました。早期の構想案の策定を期待します。
延原委員	c	→	4	中止も考えるべき。
橋本委員	c	→	4	基本構想のとりまとめが出来ず、大幅な遅れがあると判断。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	土地利用との関係をどう評価に盛り込むかは悩ましい。
福崎委員	c	→	4	会議録の抜粋を見る限り、「子ども博物館」の検討が、特定の建物に置く施設について考えているのか、子どもが過ごせる特定の場所・環境のあり様を考えているのか、分からない。 今後の事業：「構想の取りまとめ」について、意見が膠着しているポイントを挙げて、その解消を解決を目標としてはどうか。強引な結論は避けて欲しい。
町田委員	c	→	4	構想の推進ができなかった点で、評価します。
三浦委員	c	→	4	工程の遅れの原因分析と今後の対応方針の説明が必要。
委員会評価 (平均点)	c		3.4	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.2-5 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	24-1	待機児童ゼロプロジェクト(認可保育所)	4年以内	【認可保育所】 ・24年度末までに定員1,100人増	①保育所定員300人増 ②駅前地域における施設基準の見直し ③定員400人増に向けた準備	①☆保育所定員328人増 ②駅前地域における施設基準の見直し完了 ③☆定員580人増に向けた準備	a	→	9	・平成22年度の数値目標、取組目標を上回る進捗を実現したため「a」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	評価通り今後も期待する。
猪野委員	a	→	9	目標を大きく上回る進捗。
木島委員	a	→	9	評価理由: 保育所定員増(達成率109%)・定員増に向けた準備(達成率145%)ともに目標数を上回った
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	a	→	9	内部評価と同様に評価。
長野委員	a	→	9	前年度比で+10億円以上の予算が生まれ、年度当初目標を上回る増員に向けた準備が行われた。
野崎委員	b	↗	8	工程表を上回り進捗されたと判断いたしました。今後も需要の増加が見込まれますので、数値目標の見直しとそれに合わせた工程表の見直しも必要だと考えます。
延原委員	a	→	9	特になし。
橋本委員	b	↗	8	事業計画(工程表)のとおり進捗、目標数をクリアしている点を加点しました。
林委員	b	↗	8	①は加点要素、③は準備段階のためこれも加点要素と判断。
廣瀬委員	a	→	9	内部評価の通り
福崎委員	a	→	9	継続して保育所と協力し、努力して頂きたい。
町田委員	a	→	9	待機児童解消についての予定の定員増にむけて、300人予定を328人の定員増となったことは評価。400人を超えることで加点
三浦委員	b	↗	8	平成22年度実績に、328人定員増の実現に加え、平成23年度定員580人増に向けた準備が含まれると判断して加点。ただし、待機児童数は微減に留まっているので、平成22年度進捗評価としてはb8。
委員会評価 (平均点)	a		8.7	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.2-6（第3回委員会：7月8日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	24-2	待機児童ゼロプロジェクト（ナーサリールーム・家庭保育室）	4年以内	【ナーサリールーム・保育室】 ・24年度末までに定員900人増	①ナーサリールーム・家庭保育室の定員300人増 ②定員300人増に向けた準備	①☆ナーサリールーム・家庭保育室の定員808人増 ②☆定員317人増に向けた準備	a	→	9	・平成22年度の目標定員数300人増を上回る808人増の整備を行ったので、進捗度を「a」と判断。

委員名	達成度			
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	計画通りの入居率の為、良とする。
猪野委員	a	→	9	目標値を大幅に上回っている。
木島委員	a	↗	10	評価理由：達成率269%を評価
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	a	→	9	内部評価と同様に評価。
長野委員	a	→	9	補正予算も組み、年度当初目標を上回る定員増を実現した。
野崎委員	b	↗	8	工程表を上回り進捗されたと判断いたしました。待機児童数と人口増加を考えますと当初の計画の設定を見直す必要を感じます。
延原委員	a	→	9	特になし。
橋本委員	a	→	9	事業計画（工程表）のとおり進捗、目標数を大幅にクリアしている点を評価しました。
林委員	a	→	9	大幅な増加が高く評価できる。
廣瀬委員	a	→	9	内部評価の通り
福崎委員	a	→	9	継続して適切な環境を審査し、努力して頂きたい。
町田委員	a	→	9	待機児童解消についての予定の定員増にむけて、300人予定を520人の定員増とし、さらに808人までに増員したことに大きく評価
三浦委員	b	↗	8	ナーサリールーム・家庭保育室（認可外保育施設）の定員増はめざましいが、実際の利用率や利用者の経済負担を加味した満足度は高まっているのか？ さいたま市保育所待機児童数は微減に留まっているので、平成22年度進捗評価はb 8。
委員会評価 (平均点)	a		8.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.2-7 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	24-3	待機児童ゼロプロジェクト(放課後児童クラブ)	4年以内	【放課後児童クラブ】 ・24年度末までに受入可能児童数 1,440人増	①受入可能児童数の増員360人 ②余裕教室活用によるクラブの整備	①★受入可能児童数の増員306人 ②野田小学校における余裕教室活用によるクラブ整備の計画決定	c	→	4	・待機児童解消に向けた公民保護者負担の平準化の検討及び野田小学校に平成24年度4月の開設に向けた、施設整備予算を措置することができたが、受入可能児童数増員の数値目標を達成していないので、進捗度を「c」と判断。

委員名	達成度			
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	予定通りでなかったので良い方向に期待する。
猪野委員	c	→	4	受け入れ可能児童数の増員に遅れがある。
木島委員	c	→	4	評価理由：未達
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	→	4	内部評価と同様に評価。
長野委員	c	→	4	目標の定員増は至らなかった。
野崎委員	c	→	4	工程表通り実行されていないと判断しました。課題達成の為の打開策を明確化出来なければ以降の計画達成も難しいと感じます。
延原委員	c	↗	5	306人/360人の達成なので6点にUP。
橋本委員	c	→	4	数値目標が達成しておらず、昨年度と比較して進捗度が進んでいないと判断、今後の対策等についても記述がなく不十分な印象です。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	受け入れ可能児童数の増加が届かず、余裕教室活用が計画決定に止まることから。
福崎委員	c	→	4	増員を困難にするのは運営費や人材確保ではないかと思うが、行政としての予算は十分に割かれているのか、「予算枠の拡大」も目標になるのではないか。
町田委員	c	→	4	実際には待機児童は施設が整備されるにつれて、計画当初の把握人数よりも増加します。働きやすい環境づくりへより一層の施策をお願いします。
三浦委員	c	→	4	受入定員が目標に達していないうえに、待機児童数も増加しているので減点。
委員会評価 (平均点)	c		4.1	

＜ヒアリング実施事業(7事業)＞

No.	宣言・分野	倍増プラン事業名	委員名 (敬称略)	伊藤	猪野	木島	栗原	高島	長野	野崎	延原	橋本	林	廣瀬	福岡	町田	三浦	達成度																							
																		進捗度				点数																			
																		a	b	c	d	平均値	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値							
2	市民・自治	15	市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。(2年以内)	達成度	進捗度	c	c	c	c	c	c	b	c	c	c	c	c	c	a	b	c	d	平均値	c	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値	4.0				
				達成度	点数	4	4	4	4	4	4	6	4	4	4	4	4	4		1	13																				
3	子ども	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)																																							
		20-1	児童相談所の充実	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	a	b	c	d	平均値	b	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値	7.1			
				達成度	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	7	8	7	7																	
		20-2	保健所の充実	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	a	b	c	d	平均値	b	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値	7.0			
				達成度	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7																	
		22	子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)	達成度	進捗度	c	d	d	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	a	b	c	d	平均値	c	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値	3.9			
				達成度	点数	4	1	0	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4			12	2																	
		保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)																																							
		24-1	認可保育所	達成度	進捗度	a	a	a	a	a	a	b	a	b	b	a	a	a	b	a	b	c	d	平均値	a	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値	8.7			
				達成度	点数	9	9	9	9	9	9	8	9	8	8	9	9	9	8	9	9	9	9	8																	
24-2	ナーサリールーム・家庭保育室	達成度	進捗度	a	a	a	a	a	a	b	a	a	a	a	a	a	b	a	b	c	d	平均値	a	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値	8.9					
		達成度	点数	9	9	10	9	9	9	8	9	9	9	9	9	9	9	8	9	9	9	8																			
24-3	放課後児童クラブ	達成度	進捗度	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	a	b	c	d	平均値	c	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値	4.1					
		達成度	点数	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4			14																					

※平均値の集計について … 達成度の点数が単独で2点以上の開きがある場合は、離れ値として扱い、平均値の算出から除外している。

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-1 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行財政改革	9-1	情報公開日本一（情報提供体制の整備）	2年以内	22年度末までに広報(情報提供)マスタープラン策定	①「広報(情報提供)マスタープラン」の策定。 ②ホームページの掲載方法の改善。 ③全庁統一的に行政情報を市民に分かり易く提供するための仕組みの構築。 ④「見える化」推進責任者の配置など推進体制を整備。	①平成23年3月「PRマスタープラン」を策定。 ②情報公開条例の一部改正を行い9月施行。 ③ホームページ上で主要行政計画の一覧化を実施 ④「見える化」推進責任者の配置など推進体制を整備。	b	↑	8	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。さらに、情報公開条例の改正を行い、情報公開請求を何人にも認めること等の見直しを行った点を加点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	政令指定都市での情報公開の現状を知った上で（項目毎）比較すべき。
猪野委員	b	↑	8	情報公開条例の一部改正を加点評価。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り コメント：情報公開条例の改正内容不明、「見える化」推進責任者の設置がどのような効果を上げたのか不明のため加点なし
栗原委員	b	↑	8	—
高島委員	b	↑	8	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの情報提供体制整備の達成内容である。
野崎委員	b	↑	8	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	↑	8	具体的に情報公開条例の改正という行為を加点評価しました。
林委員	b	→	7	目標の通りと判断。
廣瀬委員	b	→	7	アウトプットは工程表通り。アウトカムはどうか？
福崎委員	b	↑	8	条例の改正は非常に重要な点かと思う。 きれいな画面になって、ホームページの検索しやすさも上がったと思うが、個人的に内容の見やすさという点で疑問が残る。「文書情報の質」も、読み手が内容を見やすく感じるかに係るので、掲載文章はさらに検討できるようにしてほしい。新たな目標として頂きたい、来年度に期待する。
町田委員	b	↑	8	平成22年度の工程表どおりにおおむね進捗しているためb。マスタープランまでの策定を予定どおり設定したため。
三浦委員	b	→	7	ほぼ工程通りの進捗状況と判断。 ホームページでの情報公開は、内容の充実は進んでいるようだが、探している計画書や報告書などの目的とする資料になかなかアクセスできない。検索性の改善などが望まれる。
委員会評価 (平均点)	b		7.5	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-2 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行財政改革	9-2	情報公開日本一（戦略会議の審議内容公開）	2年以内	21年9月から審議内容と会議資料を公表	・会議終了後おおむね1ヶ月で審議内容と会議資料を公表する。	・★平均公表月数 3.2ヶ月	c	→	4	・公表までに時間がかかっているため、「c」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	c	→	4	概要を公表し、その後に内容を公表する方法を考えるべきではないか。
猪野委員	c	→	4	目標を達成できていない。スピーディな対応を望む。
木島委員	c	↘	3	評価理由：遅延、かつ遅れ幅が大きい コメント：公開遅延の理由と改善策を公表すべき
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	→	4	内部評価と同様に評価。
長野委員	c	→	4	内部評価は概ね妥当である。
野崎委員	c	→	4	工程表通り進行していただきたい。
延原委員	c	→	4	特になし
橋本委員	c	→	4	公表時期は厳守。情報公開と未公開等の整理が出来ているのかどうか気になるところです。
林委員	c	→	4	公表が速やかなのは大切なことだが、1ヶ月が実質厳しいのであれば、期間を見直すべき。公表の内容、公表の仕方の質が落ちるより良いのでは？
廣瀬委員	c	→	4	タイミングは情報の重要な要素。遅れの分析と改善策が見えていないのは問題である。
福崎委員	c	→	4	会議そのものの価値の向上、定着のためにも、継続して挑戦してもらいたい。
町田委員	b	↘	5	平成22年度の工程表どおりに実施していると推定してb。公表の範囲がどの程度であるかが客観的に不明なためマイナス。
三浦委員	c	↘	3	NPO法人の期末税申告が2カ月以内。所轄庁への年度報告が3カ月以内であるのに比して、行政内の事務処理に3.2カ月もかかるのは怠慢と言わざるを得ない。
委員会評価 (平均点)	b		3.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-3 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行財政改革	9-3	情報公開日本一（パブリックコメントの充実）	2年以内	22年度末までに平均意見提出件数を51件から100件	①平均意見提出件数100件 ②制度説明会の開催	①★平均意見提出件数48件 ②制度研修会1回開催	c	→	4	・前年度実績が31件から50件へ増えたものの、期限までに100件まで増やせなかったことから、進捗度を「C」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	c	→	4	意見を出せる環境であれば数値目標は不要と思う。
猪野委員	c	→	4	目標値を大きく下回っている。
木島委員	d	→	1	評価理由：未達、かつ達成率48%大幅な未達（実績48件/目標100件） コメント：目標設定時の51件（H20年度）より下回っている
栗原委員	c	↘	3	昨年よりも件数は増えているものの、2年連続での大幅な未達という結果から、前年度の結果が活かされていないと判断し、マイナス評価としました。
高島委員	c	→	4	内部評価と同様に評価。
長野委員	c	↘	3	意見提出件数は平成20年度実績よりも低下している。なお、パブリックコメントを求めるのが、各回のもののみとして計測しているが、1つの案件（計画・条例）の中での中間段階と最終素案と多段階で行った場合での合計で見る視点も必要であるともいえる。また、そうした多段階での参加を行うことも重要ではないだろうか。
野崎委員	c	→	4	更なる情報提供周知の徹底を行っていただき、数値目標との乖離を埋めていただきたい。件数だけに捕らわれず、広く市民が意見を吸い出しやすくする工夫も検討していただきたい。
延原委員	c	→	4	特になし
橋本委員	c	→	4	市民の意見を聞くことは大切であるが、件数達成より、コメントを出しやすい環境整備への取り組みを充実すべきと考えます。
林委員	c	→	4	市民周知が課題。提出件数をあげるなら、何か対価を出すか、他の行事とセットにする（タウンミーティング参加の前提条件とする等）、テーマによっては関係の深い企業や団体にパブコメ参加をお願いする等が考えられるが・・・。
廣瀬委員	c	→	4	パブリックコメント期間を基本的に1ヶ月確保し、事後的な報告は徹底されていて良いが、予告やパブコメ案件に関する事前の情報提供が不十分と感じる。それが件数増を達成できない要因のひとつではないか。
福崎委員	b	↘	6	前年度より数が増えたことを評価してbとした。 意見提出数がなぜ予想したほど伸びなかったのか、取り組みの欠点を考察して、来年度に生かしてもらいたい。
町田委員	c	→	4	平成22年度の目標である100件達成の点でC。 具体的実施内容の目的と趣旨、その活用方法にいて不明なため加減点はなし。
三浦委員	c	→	4	内部評価と同様の判断。 今後、意見件数を増やすためには、これまで意見を提出した市民に個別調査（意見提出にいたった経緯や動機、意見提出後の満足度など）を行って分析することが必要ではないか。
委員会評価 (平均点)	b		3.8	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-4 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行財政改革	9-4	情報公開日本一（パブリシティの推進）	2年以内	21年度中に月1⇒2回 21年度中に教育長の定例記者会見開始 22年度までにパブリシティ件数1500件	①パブリシティの件数 ②市長記者会見の回数増 ③教育長記者会見の開始	①パブリシティの件数 1,544件 ②市長記者会見の回数増 年20回 ③教育長記者会見の開始 年6回	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	内容により開催すべきで回数は関係ない。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	c	→	4	評価理由：定例会見月2回が未達 コメント：議会月に開催不可なのであれば目標を記者懇談会開催など変更すべき
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	↘	6	市長記者会見が議会の都合で2回出来なかったとあるが、議会があるのは初めからわかっていることなので理由にはならないと判断し減点。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	数値目標は達成しているが、メディアに取り上げられた回数（TV、新聞 etc）、即ち市民が市のHP以外で知る回数（メディアのコメントが入る）も重要と思う。
橋本委員	b	→	7	市民の情報源としてメディアの活用は大切だと思います。この事業の結果記事掲載数等の分析がされておらず（見つけ出せず）、内部評価に満足していません。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	↘	6	パブリシティ件数は目的を達成しているが、それが実際の報道に結びついて初めて効果があがる。その検証がなされているのか？
福崎委員	b	↗	8	2年間の目標として設定されていたパブリシティの件数を達成した点を評価した。 スポークスマンとしての市長へのサポートは、有権者市民の信託に対してプラスに還元されると思う。
町田委員	b	→	7	予定どおりと判断。市長のみならず教育長の会見などについてもHP閲覧できるよう期待する。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		6.7	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-5（第3回委員会：7月8日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行財政改革	9-5	情報公開日本一（身近な道路整備要望への対応状況の公表）	2年以内	22年度から要望受付状況などを公表	①要望受付の公表	①要望受付の公表 ②☆要望対応状況の公表	a	→	9	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程等を上回り進捗したことから「a」と判断しました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	a	→	9	公表の目標はクリア。内容については判断できず。
猪野委員	b	↗	8	前倒しを加点評価。
木島委員	b	→	7	評価理由：受付は公表されているので目標通り。加点理由としている対応状況公表について、進捗状況が分かる形で公表されていないため、加点なし（例：受理としているものが大半だが、今後いつ次の段階に進むのか不明）
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	a	→	9	内部評価と同様に評価。
長野委員	a	→	9	工程表を1年前倒しでの実現となった。
野崎委員	b	↗	8	工程表を上回り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	a-9に評価するほどでもない。またH18要望で今だ決定していないような案件は中止 or 不実行の決定公表をすべきである。
橋本委員	b	↗	8	要望対応状況の公表を前倒し実施点を加点しました。
林委員	b	↗	8	—
廣瀬委員	a	→	9	工程表通りの進捗
福崎委員	b	→	7	年間要望数が100件ある道路事業について、未公開だった情報が公開されたのは非常によいと思います。 目標が不明瞭：今後も制度として定着させるために、具体的な公表期日や情報更新の決まりなどを設定してもらいたい。（道路環境課）
町田委員	b	↗	8	要望への対応状況などの公表が目標なのだから、この実現を早急にすることは当然。事前計画からは進捗しているというので加点とした。
三浦委員	a	→	9	地域利害の色濃いこのような案件は情報の公開が大切。引きつづき精力的な取り組みを期待する。
委員会評価 (平均点)	b		8.2	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-6 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行財政改革	9-6	情報公開日本一(市へ寄せられた意見とその対応状況の公表)	3年以内	21年度中に対応状況などを公表	①わたしの提案、タウンミーティング、対話集会、陳情書等の公表 ②広聴事業概要書の作成・公表	①わたしの提案、タウンミーティング、対話集会、陳情書等の公表 ②広聴事業概要書の作成・公表	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	公表目標はクリア。内容については判断できず。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果を挙げていると判断する。
野崎委員	b	→	7	概ね工程表通り進捗されていますが、実施事業の達成にバラツキがある判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗
福崎委員	b	↗	8	実施回数を見ると、非常に充実した取り組みになっていると思われる。 昨年までの実績から決められると思うので、単年度目標に各集会の「実施回数目標」を加えてもらいたい。(公聴課)
町田委員	b	→	7	予定どおりの実施と判断
三浦委員	b	↘	6	対話集会の公表が年度末になっている。また、ホームページでは対話集会もタウンミーティングも見出が年月日と会場のみで、クリックしてみないと内容やテーマが伺い知れない。公表方法としては不親切である。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-7 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行財政改革	10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止	2年以内	21年度末までに兼職を0	・外郭団体の長に経営能力のある民間人や公募等で選考した人材を登用します。	・☆6団体で登用したことにより、廃止予定の1団体及び合併により消滅した2団体を除く全ての団体の長に民間人や公募等で選考した人材を登用しました。	a	→	9	・平成24年度までの期日目標を前倒して、廃止予定の1団体及び合併により消滅した2団体を除く全ての団体の長に民間人や公募等で選考した人材を登用したため、「a」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	単なる件数は予定通りではあるが、内容は（社協関係等）重要な件で統合はすべきでない。（内容について問題あり）
猪野委員	a	↗	10	目標を上回る大幅な進捗。二年間の前倒しを加点評価。
木島委員	a	→	9	評価理由：目標前倒し達成
栗原委員	a	→	9	ただ民間とするのではなく、その人選が重要と考えます。
高島委員	b	↗	8	22年度の数値目標がないので、「前倒しして完結した」ことを加点にとどめた。
長野委員	a	→	9	工程表を前倒しで実現している。
野崎委員	b	↗	8	工程表を上回り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	a-9と現場は自己評価しているが、目標通りなので、bとした。
橋本委員	a	→	9	前倒しして取り組んだ点を評価しました。
林委員	a	→	9	前倒しを評価。
廣瀬委員	a	→	9	これで事業としては完了となるか。
福崎委員	a	→	9	「今後も公募を実施する場合には募集方法の工夫が必要」という課題が示されているが、公募の取り組みを継続する為に、兼職の廃止を条例に加える動きはないのでしょうか。
町田委員	a	→	9	期日目標を前倒ししたということのみで評価。透明性・公平性の点からも早期実現は評価できる。
三浦委員	a	→	9	より適性ある人材の登用に努めて欲しい。
委員会評価 (平均点)	a		8.6	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-8 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行財政改革	11	職員の自動的な天下りを廃止	2年以内	21年度末までに要綱策定 22年度末までに廃止	・再就職状況の公表	・再就職状況の公表	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等 のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	公表については理解するが、現状を見ると適材適所とは見られない。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りといえる。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	工程表の通り。
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗だが、現状をどう評価するのか？
福崎委員	b	↘	6	公表内容が不明瞭。「市外郭団体への再就職」が「廃止」になっていないが、「市の推薦＝自動的な天下り」ではなかったということか。市再任用職員の配属先はどこか。優遇対応な役職に就いていないか。 個人的に、定年退職者の再就職自体には反対ではないので、「優遇措置」がされていないことを約束し、明確に示せる行政であってほしい。
町田委員	b	→	7	天下りそのものは、合理的な行財政運営・人的資源活用のためにも必要なもの。「自動的」というところが問題。結果的にそうなったならその必要性を明確にすべき。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-9 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行財政改革	12-1	行政職への民間人登用(行政職への民間人登用)	2年以内	21年度中に条例制定、民間人登用 23年4月までに15人程度採用	・平成23年4月までに15人程度の採用	・平成23年4月までに11人の採用	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	目標は理解するが内容についての評価は今後である。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：必要とされる人員が採用できているため目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りといえる。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	*15人採用予定が11人で充分であったが故にb-7と自己評価しているが、15人採用目標があまかったと云う事なのか。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。任期付職員導入等採用制度や今後の事業展開との関連で取り組みを分析する必要ではないでしょうか。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	基本的に工程表通り。その成果をどう評価するのか？
福崎委員	b	↘	6	15人程度という目標に対して、11人はやはり十分とは言えない。 今年度の事業計画：24年までに任期が終わらない採用ばかりだが、新規採用枠の予定はあるのか。それとも、民間登用は達成したということで、23年度評価の項目から外れるのか、確認したい。
町田委員	b	→	7	新たな発送や内部活性化のためにも民間人登用は効果がある。積極的に取り組むべき施策と考えている。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。 採用された民間人が行政組織内で活かされるバックアップ体制が必要。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-10 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行財政改革	12-2	行政職への民間人登用（民間企業等経験者の採用）	2年以内	民間企業等の経験者採用を23年4月に5人から10人に倍増	①平成22年 5名採用	①△平成22年 7名採用 ②△民間企業への研修派遣の実施	b	↑	8	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので、「b」と判断。さらに民間企業への研修派遣を実施したことを加点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	↑	8	目標数は評価するが、内容については今後の評価が必要。
猪野委員	b	↑	8	目標値を上回り、かつ民間企業へ研修派遣を行ったことを加点評価。
木島委員	a	↑	10	評価理由：達成率140%を評価（7/5） 民間企業の経験を生かすための方策として、目標にない研修派遣を行ったことを加点
栗原委員	b	↑	8	—
高島委員	b	↑	8	目標の5名を上回ったので加点とした。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗と考える。なお、研修派遣は採用とは別次元と考え、加点要素とはしなかった。
野崎委員	b	↑	8	工程表を上回り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	*民間企業（電通）へ1名研修派遣した程度では8点にならない。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のおり、進捗したと判断しました。 採用する一民間への研修派遣実施という目標—実績評価がわかりにくく加点にはしませんでした。
林委員	b	↑	8	—
廣瀬委員	b	→	7	基本的に工程表通り。民間企業への研修派遣はごく一般的な取り組みであり、加点要素とするものではない。
福崎委員	b	↑	8	閉塞的行政の体質改善になると思われるこの取り組みは、今後も充実させてほしい。 今年度の事業計画：人数枠は増やせるのか。職種を、行政事務、科学、薬剤師以外に増やせるのか。
町田委員	b	↑	8	採用数が増えたという実績数において評価。民間企業への研修も評価。
三浦委員	b	→	7	計画を上回ったとはいえ、もともとの母数が少ないのでほぼ工程通りと判断。 申込者数を見ると、大変な倍率で狭き門となっているが、採用後の辞令は職歴が活かされるような人事となっているのか？
委員会評価 (平均点)	b		7.8	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-11 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行財政改革	12-3	行政職への民間人登用(適材適所の人事配置)	2年以内	21年度中に庁内公募導入、22年度から人事評価結果を活用した人事配置	①公募に相応しいポストを選定し庁内公募を実施 ②人事評価結果を活用した人事配置	①11ポストについて、庁内公募を実施 ②人事評価結果を活用した人事配置	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	選定について評価するが内容については今後の評価が必要。(職員の意欲を期待する)
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由:目標通り
栗原委員	b	→	7	選ばれたポストがどう「公募に相応しい」のか、理由が知りたいです。
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	概ね工程表通りと考えるが、人事評価結果の活用の方法・内容は良く掴めなかった。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗。その成果の検証が必要だが、それにはまだしばらくの時間を要するだろう。
福崎委員	b	→	8	人事に係る事務が増えたとしても、職員インセンティブとして導入し続けてもらいたい。
町田委員	b	→	7	職員を数値で一方的に評価するのは公務員の場合そのやり方がむずかしい。職員の自発的な活力を発揮させるための自己肯定感・自己達成感を抱かせるための動機づけとのフォローが大切と考える。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-12 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行財政改革	13	電子市役所の構築	4年以内	市民サービスの充実に向けた電子市役所構築	①基幹系システム再構築の完了 ②第三次情報化計画及びアクションプランの策定	①基幹系システム再構築の完了 ②第三次情報化計画及びアクションプラン策定	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	職員の意識の変化とシステムの効率化を期待する。(情報管理をしっかりと取り組むべき)
猪野委員	b	↗	8	第三次情報化計画素案に対する意見数が目標値を上回ったことを加点評価。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗と考える。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。今後の計画に沿った実行を期待します。
延原委員	b	↘	6	*「運用コスト削減」と明示しているのに、H22目標にコスト削減目標が記載されていない。よって自己評価7を6に減じた。
橋本委員	b	↘	6	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。運用コストの削減に関して記載が無い点(確か昨年質問されていた)を減点しました。
林委員	b	→	7	非常に便利になる取り組み。期待大。
廣瀬委員	b	→	7	運用コストの削減はどれだけ達成されたのか？
福崎委員	b	→	7	プランの取組内容に記載されている、「運用コストの削減」については実現されているのか。目標設定し、金額を示すべきではないか。
町田委員	b	→	7	電子化によるメリットやコストバランスなど必要性に応じて市民に説明していただきたい。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-13 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
2 市民・自治	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化	すぐ	・22年度中に区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた基本方針策定	①「区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた基本方針」の策定 ②各区役所における新体制移行の準備	①平成23年1月に基本方針を策定 ②移行準備の実施	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	23年度の区民会議における新体制による内容の充実を期待する。(委員の選出については種々の配慮を要する)
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	移行後のフォローが大切と考えます。
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗であると考えます。
野崎委員	b	→	7	開催回数だけでなく、会議の質についても検証が必要。各区の情報共有も必要と考えます。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通り、基本方針を策定し移行準備を行った。
福崎委員	b	↘	6	移行期間は必要であるが、移行準備の実施とは何を行うことなのか、担当職員がこの点について具体的に何か行動したのか、これだけでは判断できない。
町田委員	b	→	7	基本方針の素案の作成など一般公募による市民を交えての決定は予定どおりの進捗と判断します。
三浦委員	c	↗	5	区役所が平成23年度から新たな区民会議、コミュニティ会議の改革方針を受けて準備するためには、1月の基本方針策定は遅すぎた。区役所はもとより、区民会議委員やコミュニティ会議として活動している区民にも大変な混乱を招き、今もってその影響が少なくないので大きく減点。
委員会評価 (平均点)	b		6.8	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-14 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
2 市民・自治	16	大学コンソーシアムの構築	4年以内	・23年度末までに「(仮称)大学コンソーシアム」を構築 ・24年度末までに大学コンソーシアムと包括協定を締結し、プロジェクト実施	①検討協議会の設置(年6回開催予定) ②座談会1回開催(秋頃) ③大学コンソーシアム設立に向けた合意(秋頃)	①H22.5月設置(6回開催) ②H22.10月に開催 ③座談会の場において合意書へ署名	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	大学、市民双方のメリットは何か考えて今後の取り組みを考えるべきと思う。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗と言える。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし。 ※単なる疑問：評価事業一覧のP30記載所管(1か所)と違うが？ 「コメント」ではありません。
橋本委員	b	↘	6	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。具体的にどうするのか、何をするのか伝わり難い目標を減点しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	設置に向けて工程表通りに進捗。
福崎委員	b	↗	8	合意がなされたという点は、評価したい。 予算を割く以上、丁寧なプロジェクトの設計、試行錯誤をして頂きたい。
町田委員	b	→	7	平成22年度は協議会、座談会を開催。コンソーシアム設置に向けた構築の合意ということで予定どおり。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-15 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	17	夢工房 未来(みら)くる先生 ふれ愛推進事業	すぐ	・22年度にすべての市立小学校で実施 ・23年度から全市立幼・小・中・特別支援学校で実施	①市立小学校全校(102校)で実施 ②希望のある市立幼稚園、中・特別支援学校で実施	①市立小学校101校、延べ113回実施 ②希望のあった市立中学校7校、延べ9回実施 ※合計108校、延べ122回実施(小学校1校、地震の影響で中止)	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	取り組みとしては評価できるが教育委員会での認識及び時間的な余裕があるかが問題。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	地震で中止した小学校のフォローは？
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗を得ている。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。今後はより多くの団体とも連携し、講師の充実に努めていただきたい。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	↘	6	実施校、回数は予定通り進捗したと判断、さいたま市の全児童・生徒のうち授業を受けた児童・生徒の割合が昨年に比べ減少/増加したのか、数値が不明な点を減点。
林委員	b	→	7	ほぼ進捗通り。子供の未来の可能性が広がるとも良い取り組みと思う。
廣瀬委員	b	→	7	地震の影響を除き、工程表通りに実施。
福崎委員	b	↗	8	充実した取り組みがなされたと思います。
町田委員	b	→	7	授業を101校で実施し、予定どおりの進捗と判断します。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-16 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	18-1	基礎学力向上のためのプロジェクト (読み・書き・そろばん)	2年以内	・22年度末までに基礎学力定着プログラムなどを見直し、「読み・書き・そろばんプロジェクト」を実施	①「基礎学力定着プログラム」の98項目の見直し ②研究推進モデル校14校の委嘱、研修会の実施 ③「さいたま土曜チャレンジスクール」での書道・そろばんの実施	①「基礎学力定着プログラム」の139項目の見直し ②研究推進モデル校14校の委嘱、研修会の実施 ③▼「さいたま土曜チャレンジスクール」での書道・そろばんの実施	b	↓	6	・概ね平成22年度の数値目標・取組内容・工程表等のおり進捗したので、「b」と判断。 ・ただし、土曜チャレンジスクールでの実施が1校にとどまった点を減点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	↓	6	実施における教員、地域等対応できる体制が整っているか現状を把握すべきである。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	↓	6	—
高島委員	b	→	7	土曜チャレンジスクールもまだ全校実施ではないので、1校のみでも減点とは思わない。
長野委員	b	↓	6	概ね工程表通りの進捗といえる。なお、土曜日チャレンジスクールでの実施体制が整わなかったということの背景には、民間の書道塾など、民業との調整（民業圧迫？）の問題もあるかもしれないため、要検討と考える。
野崎委員	b	↓	6	概ね工程表の通り進捗されましたが、達成されていない事業が有りましたので。
延原委員	b	↓	6	特になし
橋本委員	c	↑	5	①、②事業計画（工程表）のおり、進捗したと判断しました。しかし昨年から進捗していない「土チャレ」に遅れがあると判断。分析対策が聞きたい。
林委員	b	↓	6	—
廣瀬委員	b	↓	6	土曜チャレンジスクールとの連携が困難な理由の分析は？
福崎委員	c	↑	5	備品の準備をして実施が伴わなかったのでは困る。基礎学力は教育の最重要課題ですので、子どもに寄り添うように力を入れて企画しつつ、現場での実現性を重視して頂きたい。 そして、プロジェクトに対し、もっと具体的な実施事業を挙げるべきではないか。
町田委員	b	↓	6	土曜チャレンジスクールの実施が遅れているいるため、予定より遅れていると判断します。
三浦委員	b	↓	6	内部評価と同様の判断。 ただし、書道やそろばんは民間のお稽古教室とどこが違うのか？ 増やす必要があるのか。
委員会評価 (平均点)	b		6.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-17 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	18-2	基礎学力向上のためのプロジェクト (なわとび・逆上がり)	2年以内	・22年度末までに長縄8の字跳び参加グループ数を1,400グループ ・22年度末までに補助板活用逆上がり成就率を93% ・24年度末までに補助板を活用しない成就率を80%	①長縄8の字跳びの参加グループ数を1,400グループ ②補助板を活用した逆上がり成就率を93% ③補助板を活用しない逆上がり成就率を75%	①長縄8の字跳びの参加グループ数3,655グループ ②補助板を活用した逆上がり成就率は93.1% ③補助板を活用しない逆上がり成就率は71%	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	目標は理解するが、子どもたちの体力がどの程度であるか判断し、大量区増強の種目を決めるべきと思う。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：縄跳び参加のグループ数は加点だが逆上がり補助板無しが未達のため相殺し加減無しとする
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	長縄の参加グループ数の飛躍を加点、補助板を活用しない逆上りの実績を減点とした。
長野委員	b	→	7	概ね工程表通りの進捗といえる。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。目的達成の手段として補助板を購入するのがベターかどうか、疑問を感じます。
林委員	b	→	7	子供の体力向上と、健やかな心を育てる良いプロジェクト。ほぼ進捗通りと判断。
廣瀬委員	b	→	7	縄跳びは拡がり、逆上がりはやや成果が期待に及ばない。総合して工程表通りと評価。
福崎委員	b	→	8	補助版で繰り返し練習したことで、補助版なしの逆上がりが出来た経験があります。補助版設置は、目標達成を支える重要な布石だと評価します。
町田委員	b	→	7	8の字跳びや逆上がりなどの実施など予定どおりの進捗と判断。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-18 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	18-3	基礎学力向上のためのプロジェクト (あいさつ・礼儀)	2 年 以 内	・22年度末までに全市立小中学校であいさつ運動に取り組む	・あいさつや礼儀を踏まえた言葉で溢れる学校づくりを目指し、すべての市立小・中学校で「あいさつ運動」に取り組む。	・すべての市立小・中学校で「人間関係プログラム」及び「あいさつ運動」を実施する。 ・「あいさつ運動推進モデル校小・中併せて20校」による「あいさつ運動」を推進する。 ・「心を潤す4つの言葉」推進運動を実施する。	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	人間として基本的なことであり家庭内でのことが、自然に出来る事が一番である。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	↗	8	評価理由：浸透させるための取り組みを加点評価（推進モデル校を前倒し設定、心を潤す4つの言葉推進運動の実施）
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗
福崎委員	b	↘	6	目標が不明瞭。予算や取組み参加者数なども数値目標として挙げるべきではないか。 道徳環境の向上は大事な課題であり、授業時間や方針設定だけでは評価できない。
町田委員	b	→	7	3つの具体的な実施事業において予定どおりの実施とされている。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。 そもそも進捗評価の対象になじまないのではないか？
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-19 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	18-4	基礎学力向上のためのプロジェクト (早寝・早起き・朝ごはん)	2 年 以 内	・22年度から市独自のキャンペーンを実施し、全市立小・中学校で取り組む	①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する「すくすくのびのび子どもの生活習慣向上」キャンペーンの全市立小・中学校での実施 ②研究指定校・推進モデル校委嘱 ③生活習慣に関するアンケート調査実施	①「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する「すくすくのびのび子どもの生活習慣向上」キャンペーンの全市立小・中学校での実施 ②5月に研究指定校4校・推進モデル校10校を委嘱 ③9月に生活習慣に関するアンケート調査を児童生徒と保護者に実施	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	当然の事が取り組み目標となるような社会となった事が残念で悲しい事と感じる。
猪野委員	b	→	7	長縄8の字跳びの参加グループが目標値を大きく上回ったことを加点評価。一方、逆上がり成就率が目標値を下回ったことを減点評価。差し引きゼロで「b7」の評価。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗
福崎委員	b	→	7	こどもの生活学習環境改善のために、具体的な施策を設定して取り組んでいるのがよいと思う。
町田委員	b	→	7	キャンペーンの実施、アンケート実施など予定どおりの進捗と判断します。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。 そもそも進捗評価の対象になじまないのではないか？
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-20 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の 数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	19	「放課後子ども教室」を倍増 (現、放課後チャレンジスクール)	2 年 以 内	・22年度末までに40教室 ・24年度末までに80教室	①新規9か所含む、 合計40か所実施 ②新規開設にあたり、さいたま土曜チャレンジスクールの一体的な整備・拡充を実施。	①新規9か所を含む、 合計40か所実施。 ②整備計画の1年前倒しを実施。	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等 のとおり進捗したので、 「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	放課後教室が地域における人材確保、安全等も配慮しなければならない事も配慮すべきである。(教育委員会、学校、地域の理解)
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果を得ている。
野崎委員	b	→	7	概ね工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 昨年に比べ、行政内での整理、横断的な対応をしていると判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗
福崎委員	b	↘	6	関係事業は統一的に整備していく必要があり、視点としては悪くないが、土曜チャレンジスクールの実態も踏まえた上での目標であったはずなのだから、前倒しになったことは減点評価する。
町田委員	b	→	7	放課後チャレンジスクールの具体的実施に加え、土曜チャレンジスクールとの一体的運営など予定どおりの進捗と判断します。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。 土曜チャレンジスクールと放課後チャレンジスクールを一体化して、課外チャレンジスクール等として制度も一本化できないか。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-21 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	21	土曜チャレンジスクール(どちゃれ)の実施	4年以内	・24年度末までに全市立小・中・高等学校でどちゃれ実施 ・24年度末までに全市立小・中・特別支援学校にSSNを構築	①さいたま土曜チャレンジスクール実施校30校 ②スクールサポートネットワークの構築30校	①さいたま土曜チャレンジスクール実施校30校 ②スクールサポートネットワークの構築30校	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断しました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	実施目標は達成されたが常に成果が今後の課題である。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	昨年度の遅れを取り戻し、工程表通りの成果を得ている。
野崎委員	b	→	7	概ね工程表の通り進捗されたと判断いたしました。関連する関係所管との連携を行情報共有をお願いしたい。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。継続して事業実施の為の取り組みが必要に感じます。マッチング制度等とのシナジー効果も考えることが出来るのでは？
林委員	b	→	7	ほぼ工程表の通りと判断。
廣瀬委員	b	→	7	取り組みの量的な面では工程表通り。他のプログラムとの連携の面では成果があがっているか？
福崎委員	b	→	7	継続して整備に当たってほしい。
町田委員	b	→	7	放課後チャレンジスクールの具体的実施に加え、土曜チャレンジスクールとの一体的運営など予定どおりの進捗と判断します。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。土曜チャレンジスクールと放課後チャレンジスクールを一体化して、課外チャレンジスクール等として制度も一本化できないか。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-22 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	23-1	子育てパパ応援プロジェクト(1日保育士体験)	4年以内	・24年度末までに父親の1日保育士・教諭体験参加者を年間1,280人	・体験参加者数802人(H21年度実績の320人増)	・体験参加者数799人	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	どの様な体験か見ていないので評価不能。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果を得ている。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	さいたま市全体で変化が見られたのか？区や地域でバラツキ等はあったのか？数値による分析が今後の取り組みでも重要と考えます。人数の定義は？延べ人数か実数か
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	目標通りの参加者数
福崎委員	b	→	7	大変な実績だと思われる。 プロジェクトの実質性を高めるためには、再来者と新規参加者を分けた報告をするべきではないか。
町田委員	b	→	7	父親のこそだてへの理解・参画という点で、ほぼ予定数どりの実績をあげた点で予定どおりとする。
三浦委員	b	↗	8	体験参加者数が順調に伸びているので加点。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-23 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	23-2	子育てパパ応援プロジェクト(子育て支援センターの活用)	4年以内	・24年度末までに全子育て支援センターで土曜開所実施 ・父親主体の講座等を年12回開催	①西区に単独型子育て支援センターを開設 ②8か所の子育て支援センターで土曜日開所を実施 ③各センターで実施する父親主体の講座やイベントを年6回開催	①西区指扇に子育て支援センターエンゼルキッズさいたま西を4月に開設 ②☆9か所すべての子育て支援センターで土曜日開所を実施 ③☆各センターで実施した父親主体の講座等を年平均8.6回開催	a	→	9	・子育て支援センターの土曜日開所について、工程表を1年前倒して平成22年度に9か所すべての子育て支援センターで達成しました。また、各センターで実施する父親主体の講座等を平均で年8.6回開催し、目標の6回と比較し43%増とすることができましたので、「a」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	a	→	9	どのような体験か見ていないので評価不能。
猪野委員	a	→	9	目標を大幅に上回る進捗。
木島委員	a	→	9	評価理由：自己評価通り目標を上回った
栗原委員	b	↗	8	目標は上回っているものの、内部評価ほど大幅とは思えなかったため一段、下げさせていただきました。
高島委員	a	→	9	内部評価と同様に評価。
長野委員	a	→	9	内部評価の内容は概ね妥当と考える。
野崎委員	a	→	9	工程表を上回り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	a	→	9	特になし
橋本委員	b	↗	8	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。土曜日開所やイベント開催を加点了。
林委員	a	→	9	—
廣瀬委員	b	↗	8	基本的には工程表の枠組で、少しペースアップしての実現なので、bの8点とした。
福崎委員	a	→	9	各センターの連携、情報共有にも取り組んでほしい。
町田委員	a	→	9	支援センターの開設、土曜日の開所については予定どおり。父親講座・イベントも約9回開催していることにより、多くの父親が参加したことを評価します。
三浦委員	b	↗	8	そもそも工程の目標数が少ないので、43%増といってもそれほどの成果とは判断できない。ほぼ工程通りで加点要素を加味して8。
委員会評価 (平均点)	b		8.7	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-24 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	23-3	子育てパパ応援プロジェクト(ワークライフバランスの認知度向上)	4年以内	・24年度末までにワークライフバランスの認知度35%	①ワークライフバランス会議の開催 ②ホームページの更新 ③子どもフォーラムでの周知	①▼ワークライフバランス会議キックオフとしてセミナー開催 ②ホームページの更新 ③△イクメンフェスタ inSAITAMA 笑っているパパ、ママになろう～子ども・青少年フォーラム2010～の実施 ④△さいたまパバスクールの実施	b	→	7	・目標どおり事業が実施できたので、「b」と判断。子どもフォーラムの規模拡大や新たに「さいたまパバスクール」を実施した一方、ワークライフバランス会議がセミナー開催に留まったため、減点評価とした。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	↘	6	どの様な体験か見ていないので評価不能。
猪野委員	b	→	7	新たにパバスクールを実施したことを加点する一方、ワークライフバランス会議が未開催となったことを減点評価。よって「b7」
木島委員	c	→	4	評価理由：ワークライフバランス会議未開催により未達
栗原委員	b	↘	6	—
高島委員	b	→	7	ワークライフバランス会議が減点、フォーラムの規模拡大を加点とした
長野委員	b	↘	6	ワークライフバランス会議の本格稼働とはならなかった。
野崎委員	b	↘	6	概ね工程表の通り進捗されましたが、達成されていない事業が有りましたので。
延原委員	b	↘	6	*Work Lifeバランスの認知度35%は目標として適切ではない。
橋本委員	b	↘	6	事業の柱と思う会議の会議が進んでいない点を減点評価しました。
林委員	b	↘	6	—
廣瀬委員	b	↘	6	活動は予定通り行ってはいるが、認知度アップにどの程度つながっているのか？
福崎委員	b	↘	6	内部評価の減点理由に同意。だが、セミナー開催で満足としない姿勢を見せることは、優れていると思われる。23年度の変化に期待。
町田委員	b	→	7	PRのためのHP作成や子どもフォーラムでの周知活動などについては、予定どおりに実施したことを評価します。ワークライフバランス会議の充実した内容に期待します。
三浦委員	b	↘	6	内部評価と同様の判断。 ただ、減点要素の「ワークライフバランス会議」の活動イメージや目標がよく分からない。
委員会評価 (平均点)	b		6.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-25 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	23-4	子育てパパ応援プロジェクト(親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策)	4年以内	・24年度末までに全公民館でパパママ向け講座実施	①さいたま市親の学習検討委員会の設置 ②さいたま市親の学習検討委員会6回開催 ③親の学習プログラム策定	①さいたま市親の学習検討委員会の設置 ②さいたま市親の学習検討委員会6回開催 ③△ワーキンググループ2回開催 ④親の学習プログラム策定	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	どのような体験か見ていないので評価不能。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由: 目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通り、「親の学習プログラム」は策定された。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗
福崎委員	b	→	7	23年度からの取組みに期待。
町田委員	b	→	7	予定どおりと判断。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-26 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	25-1	北九州方式を参考とした小児救急体制や産科救急体制を整備(小児救急)	4年以内	・小児救急医療体制の確立 ・24年度末までに初期救急患者の割合62%→35%以下	①ガイドブックの作成・配布 ②初期救急患者割合35%以下	①「さいたま市小児救急ガイドブック」を8万部作成・配布 ②初期救急患者割合14%	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	救急患者割合が減少した事ガイドブックと関係あるとは思えない。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	↗	8	評価理由：初期救急患者割合を目標の半分以下に抑えたことを評価
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	↗	8	初期救急患者割合が減った点を加点した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	↗	8	* 初期救急14%まで下げたことは効果大です。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。この事業の取り組みとの因果関係についての検証はあるのか？
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	—
福崎委員	b	↘	6	少子化対策にもなると思われる小児救急は、本気で充実させて欲しい。 目標数値が甘く、目標設定項目も少ないのではないか。
町田委員	b	→	7	子どもを安心して育てられる「さいたま市」を目指して一層の配慮を願う。予定どおりと判断。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-27 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	25-2	北九州方式を参考とした小児救急体制や産科救急体制を整備(産科救急)	4年以内	・24年度末までに地域周産期母子医療センターを2か所	①財政的支援(市有地無償貸付)による地域周産期母子医療センターの設置 ②産科医等確保支援事業補助金の交付	①地域周産期母子医療センターのオープン ②産科医等確保支援事業補助金の交付	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	計画通りでの評価とした。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表にしたがって、所期の成果を得ている。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	新都心部への小児医療センターの移転、拡大は目標に追加しないのか？
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福岡委員	b	↗	8	産科医への補助金は重要であると思われる。夜勤・長時間労働を支えるプログラム、ストレス緩和策の企画・普及にも努めてもらいたい。
町田委員	b	→	7	土地の無償貸付や産科医の確保を経て、母子医療センターのオープンや補助金交付の実現など予定どおりと評価します。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-28 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	26	質の高い特色ある学校づくり	4年以内	・24年度末までに市立高校の生徒・保護者の満足度100%を目指す	①「特色ある学校づくり計画」の学校における検討の中間報告の実施(7月) ②生徒・保護者を対象とした市立高等学校教育満足度調査の実施(12月)	①中間報告実施及び報告に基づく検討の方向性の提示(浦和・浦和南:継続、大宮北・大宮西:修正) ②満足度調査の実施(学校全般に係る満足度:生徒88.3%、保護者86.9%)	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	特色ある学校内容等分かりませんので評価不能。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	↘	6	評価理由: 予定通り中間報告は実施されたが、その報告によって、最終目標(満足度100%)に向かって進捗したことが把握できない
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの実施がなされている。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。満足度は概ね数値をクリアしていますが、特色化と共に今後引き上げていくプランが望まれます。
延原委員	b	→	7	*基本目標の「満足度100%」は不適な数値目標。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福崎委員	b	→	7	計画立案と調査実施が行われた今年度に続く、23年度の取組みに期待する。
町田委員	b	→	7	100%というのは難しい設定だが、学校ごとの計画書の作成や教育満足度の調査などを予定どおり実施している点は評価。
三浦委員	b	→	7	内部評価と同様の判断。 現実には満足度100%というのはあり得ないので、何をもって進捗度を評価すればよいか難しい。 内実は、満足度調査の実施と検証、フィードバックの取り組みを具体的に進めるプランであり、評価対象として分かりやすい情報の開示を求めたい。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-29 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
3 子ども	27	心のサポート推進事業	4 年 以 内	<ul style="list-style-type: none"> ・22年度末までに不登校から登校できるようになった割合を30%→50% ・21年度中にいじめ対策プロジェクトチームを設置し、教職員研修の充実やいじめ問題解消を目指した取組推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度末までに、不登校の状態から登校できるようになった児童生徒の割合を50%に高めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・★△指導の結果、登校する又はできるようになった児童生徒の割合は41.3%となりました。 	c	↑	5	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度末までに不登校の状態から登校できるようになった子どもの割合を50%に高めることができなかったため、進捗度を「c」と判断。ただし、21年度の実績と比較して割合が高まったことや不登校児童生徒数が減少したことなどを加点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	c	↑	5	不登校の原因を明確にし今後の対応を考えるべきである。
猪野委員	c	→	4	進捗に遅れがある。
木島委員	c	→	4	評価理由：未達 コメント：いじめ問題についての対応もH22年度に行うのであれば目標に設定すべき。質問に回答頂き、いじめについて減少数が発生件数とは異なるため減少数の数値目標は設定しないということだが、たとえば予防のための対策として保護者への周知のため〇〇を行う、といった目標は立てられると考えます
栗原委員	c	↑	5	—
高島委員	c	↑	5	重要な問題なので、今後の取り組みに期待。
長野委員	c	↑	5	組織体制・人員増の整備は工程表通りに行われている。不登校状態からの復帰目標については、一定の成果は見られるが、残念ながら、当初の目標は達せず。
野崎委員	c	→	4	工程表通り実行されていないと判断しました。一概に数値だけで判断できない問題では有りますが、計画の達成に向けて取り組みに期待します。
延原委員	c	↑	5	特になし
橋本委員	c	→	4	短期だけではなく中長期に渡る課題なので因果関係を検証する必要はあり。具体的な中身が問われるので、継続した支援の必要を！！
林委員	c	↑	5	—
廣瀬委員	c	↑	5	投稿できるようになった子どもの割合が50%に届かず。他も取り組みはしているものの、一進一退というのが実情ではないか。
福崎委員	b	↘	6	半数に近い結果を出している点で、b評価とする。 心のサポート、緊急時サポートの充実に、継続して取り組んで頂きたい。
町田委員	c	↑	5	いじめや不登校の問題は、だれでもいつでも起きるという認識のもと、学校の協力が必要となる場合も多い。こどもの目線に立った真摯な対応をお願いしたい施策である。
三浦委員	b	↘	6	大切な取り組みであり、現場の努力に敬意を表したい。 進捗度の評価軸が、「不登校の状態から登校できるようになった子どもの割合50%」と設定していることそのものが適切かどうか疑問がある。
委員会評価 (平均点)	b		4.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-30 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加減点	点数	評価理由
3 子ども	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、特別支援教育を充実	4年以内	・24年度末までに特別支援学級を小・中学校に16校新設 ・24年度末までに発達障害・情緒障害通級指導教室を4校新設 ・24年度に新たに特別支援学校新設	①特別支援学級を小学校・中学校各1校に新設(自閉症・情緒障害特別支援学級を3校に増設) ②通級指導教室を小学校・中学校各1校に設置 ③新設特別支援学校建設工事着工	①特別支援学級を小学校・中学校各1校に新設(自閉症・情緒障害特別支援学級を3校に増設) ②通級指導教室を小学校・中学校各1校に設置 ③新設特別支援学校建設工事着工	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	予定通りとして評価する。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	*昨年も指摘したが、保護者らの送迎負担をどこまで減らせるかが重要。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福崎委員	b	→	7	施設の設置で終わらず、安全安心な環境の監督、人材のリクルートに努めて欲しい。
町田委員	b	→	7	平成22年度の目標数値を、予定どおり実施したと評価。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-31 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	29	学校教育における食育の推進(学校教育ファームの実施)	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> ・24年度末までに全小中学校で学校教育ファームを実施 ・24年度末までに給食における県内地場産物活用率30%、米飯実施回数週3.5回に増 ・24年度末までに地元シェフによる学校給食を45校で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育ファーム：小学校30校、中学校10校(累計小学校53校、中学校22校) ・県内地場産物活用率：23.0% ・米飯給食実施回数：3.1回 ・地元シェフによる学校給食の実施：10校 	<ul style="list-style-type: none"> ・△学校教育ファーム 小学校43校、中学校4校(累計小学校66校、中学校16校) ・▼県内地場産物活用率 21.3% ・米飯給食実施回数 3.1回 ・地元シェフによる学校給食の実施：10校 	b	→	7	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	概ね予定通りと評価する。
猪野委員	b	▼	6	学校教育ファームに関して中学校に遅れがあり、県内地場産物活用率にも遅れがあるので減点評価。
木島委員	b	→	7	評価理由：地産物活用は未達だが、学校教育ファームが目標を上回った為、bとする
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	▼	6	学校教育ファームの中学実施が少ないので加点とせず、県内地場産物活用率の数値で減点。
長野委員	b	→	7	概ね工程表の通りである。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	▼	6	数値目標が達成しておらず、減点しました。他の事業とのシナジー効果がある事業なので寺子屋・土チャレ等との連携等進めて欲しい。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	若干目標を上回る面と、届かない面があり、総合的には工程表通り
福崎委員	b	→	7	継続してこそ価値のある事業だと思われる。強いネットワークを築いてもらいたい。
町田委員	b	→	7	小学校と中学校の内訳は異なっているものの全体数で予定どおりと評価。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		6.8	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.2-32 (第3回委員会:7月8日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
3 子ども	30	メディアリテラシー教育、携帯・ネットアドバイザー制度創設	4年以内	・22年度中に携帯・ネットアドバイザー制度創設 ・23年度末までに「携帯・インターネット安全教室」の全市立小中・特別支援学校で実施	①市立全小・中・特別支援学校160校で「携帯・インターネット安全教室」の実施 ②市立全小・中・高・特別支援学校164校の「学校非公式サイト」等の監視活動の実施	①市立全小・中・特別支援学校で「携帯・インターネット安全教室」の実施 ②市立全小・中・高・特別支援学校の「学校非公式サイト」等の監視・削除要請	b	→	7	・平成22年度の数値目標等、取組内容、工程表のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	概ね予定通りと評価する。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様に評価。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福崎委員	b	→	7	①の160校と②の164校は何が違うのか。全校実施は評価に値するが、制度の運用状況が評価できるように、事業の詳細に関する目標設定をすべきではないか。
町田委員	b	→	7	携帯・インターネット安全教室の実施、ネットアドバイザー制度の創設、安全サイトへの監視など予定どおりの進捗と判断します。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗している。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

《ヒアリング対象外事業(32事業)》

宣言・分野	No.	委員名 (敬称略)	伊藤	猪野	木島	栗原	高島	長野	野崎	延原	橋本	林	廣瀬	福岡	町田	三浦	達成度																														
																	進捗度					点数									平均値																
																	a	b	c	d	平均値	10	9	8	7	6	5	4	3	2		1	0	平均値													
I 行動宣言	情報公開日本一を実現します。(すぐ)		達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	8	7	8	8	7	8	7	8	7	8	7	8	7	平均値	b	7.5
	9-1	情報提供体制の整備	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	c	c	c	c	c	c	c	c	c	b	c	点数	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	5	3	平均値	c	3.9	
	9-2	都市経営戦略会議の審議内容等の公表	達成度	c	c	d	c	c	c	c	c	c	c	c	b	c	c	進捗度	c	c	d	c	c	c	c	c	c	b	c	点数	4	4	1	3	4	3	4	4	4	4	4	6	4	4	平均値	c	3.9
	9-3	パブリックコメントの充実	達成度	b	b	c	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	c	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	4	7	6	7	7	7	7	7	6	8	7	7	平均値	b	6.9
	9-4	パブリシティの推進	達成度	a	b	b	a	a	a	b	b	b	b	a	b	b	a	進捗度	a	b	b	a	a	a	b	b	b	a	b	点数	9	8	7	9	9	9	8	7	8	8	9	7	8	9	平均値	b	8.2
	9-5	身近な道路整備要望への対応状況の公表	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	7	6	平均値	b	7.0
	9-6	市へ寄せられた意見とその対応状況の公表	達成度	b	a	a	a	b	a	b	b	a	a	a	a	a	a	進捗度	b	a	a	a	b	a	b	b	a	a	a	点数	7	10	9	9	8	9	8	7	9	9	9	9	9	9	平均値	a	8.6
	10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。(2年以内)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	平均値	b	6.9
	11	職員の自動的な天下りを廃止します。(2年以内)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	7	7	平均値	b	6.9	
	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。(2年以内)		達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	7	7	平均値	b	6.9	
	12-1	行政職への民間人登用	達成度	b	b	a	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	a	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	8	8	10	8	8	7	8	7	7	8	7	8	8	7	平均値	b	7.7
12-2	民間企業等経験者の採用	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	7	7	平均値	b	7.1		
12-3	適材適所の人事配置	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	8	7	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	平均値	b	6.9		
13	電子市役所を構築します。(4年以内)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	平均値	b	6.9		
2 市民・自治	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。(すぐ)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	c	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	c	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	7	5	平均値	b	6.8		
	16	大学コンソーシアムの仕組みを構築します。(4年以内)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	7	6	7	7	8	7	7	平均値	b	7.0		
3 子ども	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	点数	7	7	7	7	7	7	7	6	7	7	8	7	7	平均値	b	7.0		

《ヒアリング対象外事業(32事業)》

宣言・分野	No.	委員名 (敬称略)	伊藤	猪野	木島	栗原	高島	長野	野崎	延原	橋本	林	廣瀬	福崎	町田	三浦	達成度																			
																	進捗度				点数															
																	a	b	c	d	平均値	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	平均値			
3	子ども	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。(4年以内)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14		14													7.0		
				進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b																		b	b
			29	学校教育における食育を推進します。(4年以内)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14		11	3											6.8	
					進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b																	b
			30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)	達成度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14		14													7.0
					進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b																	

※平均値の集計について … 達成度の点数が単独で2点以上の開きがある場合は、離れ値として扱い、平均値の算出から除外している。

平成23年度 市民評価委員会開催日程 (予定)

	期日・時間	内容及びヒアリング対象事業 (案)		
第1回 (終了)	6月6日(月) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付式 ・評価の実施手法 ・今後の進め方 		
第2回 (終了)	6月24日(金) 19:00~21:00	項目数 (事業数)	宣言・ 分野別	個別事業名 (事業番号 事業数)
		3項目 (10事業)	条例宣言 行財政改革	①ノーマライゼーション条例 (No. II-3 1事業) ②行財政改革推進チームの設置 (No.1-1~1-5 5事業) ③すべての窓口業務を区役所で (No.2-1~2-4 4事業)
第3回	7月8日(金) 19:00~21:00	4項目 (7事業)	行財政改革 子ども	④マッチングファンド制度創設 (No.15 1事業) ⑤児童虐待ゼロを目指し、職員を増員 (No.20-1~20-2 2事業) ⑥子ども博物館構想の推進 (No.22 1事業) ⑦待機児童ゼロプロジェクト (No.24-1~24-3 3事業)
第4回	7月22日(金) 19:00~21:00	4項目 (10事業)	高齢者 健康・ 安心・安全	⑧高齢者サロン、介護サロン (No.33-1~33-2 2事業) ⑨シルバー人材センター (No.34 1事業) ⑩シニアユニバーシティの充実 (No.35 1事業) ⑪多目的広場の倍増 (No.38-1~38-6 6事業)
第5回	8月5日(金) 19:00~21:00	3項目 (12事業)	健康・安 心・安全 環境・ まちづくり	⑫危機管理体制の充実 (No.39-1~39-3 3事業) ⑬「E-KIZUNA project」 (No.44 1事業) ⑭みどり倍増プロジェクト事業 (No.48-1~48-8 8事業)
第6回	8月19日(金) 19:00~21:00	2項目 (8事業)	環境・ まちづくり 経済・雇用	⑮市民が憩える場所づくりプロジェクト事業 (No.49-1~49-6 6事業) ⑯自立生活支援プロジェクト事業 (No.53-1~53-2 2事業)
第7回	8月30日(火) 19:00~21:00	3項目 (13事業)	経済・雇用 地域間対立	⑰雇用倍増プロジェクト (No.54-1~54-11 11事業) ⑱大宮駅東口開発 (No.60 1事業) ⑲地下鉄7号線 (No.61 1事業)
《合計》		19項目 (60事業)		
	9月9日(金) 19:00~21:00	予備日		
第8回	9月22日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
第9回	10月6日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
	10月13日(木) 19:00~21:00	予備日		
	10月15日(土) 13:30~15:30	◎「市民評価報告会」		

※上記項目数は関連事業のある項目やプロジェクト事業を1項目と計上しています。
 ※ヒアリング対象事業(案)は現時点での候補であり、今後、委員会での議論を踏まえ、ヒアリング事業の追加・割愛をすることもありますので、あらかじめご了承ください
 ※第1回~第9回までの会場はいずれも浦和コミュニティセンター第13集会室、市民評価報告会は同センターの多目的ホールを予定しておりますが、委員会の進行状況等により、日程等を変更する場合があります。

《第2回 6月24日(金) 開催分》

※ 網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
行動宣言 (5)	I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。(4年以内)			1		b	7.1
	I-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。(4年以内)			2		b	7.0
	I-3	現場訪問を400回実施。(4年以内)			3		b	7.1
	I-4	学校訪問を全校実施。(4年以内)			4		b	7.1
	I-5	職員との車座集会を100回開催。(4年以内)			5		b	7.0
条例宣言 (7)	II-1	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。(すぐ)			6		d	0.6
	II-2	生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。(すぐ)			7		b	5.6
	II-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。(すぐ)			8	1	b	7.1
	II-4	一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。(2年以内)			9		d	0.6
	II-5	「文化都市創造条例」を制定します。(2年以内)			10		b	5.6
	II-6	さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。(3年以内)			11		c	3.9
	II-7	他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。(4年以内)			12		b	6.9
行財政改革 (14/28)	1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(すぐ)	1-1	行財政改革推進本部の設置	13	2	a	8.5
			1-2	事務事業評価の見直し	14	3	b	8.3
			1-3	補助事業の見直し	15	4	b	7.6
			1-4	外郭団体改革	16	5	b	6.9
			1-5	公共施設マネジメント会議設置	17	6	b	7.1
	2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(すぐ)	2-1	窓口改革・権限移譲(統括)	18	7	b	7.0
			2-2	予算	19	8	b	7.0
			2-3	組織・人事	20	9	b	5.9
			2-4	くらし応援室の設置	21	10	b	6.9
	3	区長マニフェストを全区長が策定するようにします。(すぐ)			22		b	5.9
	4	市長の退職手当を50%減額します。(すぐ)						
	5	市長給与を10%減額します。(すぐ)						
	6	指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。(すぐ)			23		b	6.9
	7	一職員一改革提案制度を創設します。(すぐ)			24		b	8.2
8	政令市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(すぐ)	8-1	予算編成過程の公開	25		b	7.2	
		8-2	会派要望への対応状況の公表	26		b	6.1	

《第3回 7月8日(金) 開催分》

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング 事業数
行財政改革 (12/28)	9	情報公開日本一を実現します。(2年以内)	9-1	情報提供体制の整備	1	
			9-2	都市経営戦略会議の審議内容等の公表	2	
			9-3	パブリックコメントの充実	3	
			9-4	パブリシティの推進	4	
			9-5	身近な道路整備要望への対応状況の公表	5	
			9-6	市へ寄せられた意見とその対応状況の公表	6	
	10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。(2年以内)			7	
	11	職員の自動的な天下りを廃止します。(2年以内)			8	
	12	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。(2年以内)	12-1	行政職への民間人登用	9	
			12-2	民間企業等経験者の採用	10	
			12-3	適材適所の人事配置	11	
	13	電子市役所を構築します。(4年以内)			12	
	市民・自治 (3)	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。(すぐ)			13
15		市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。(2年以内)			14	1
16		大学コンソーシアムの仕組みを構築します。(4年以内)			15	
子ども (24)	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)			16	
	18	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。(2年以内)	18-1	読み・書き・そろばんプロジェクト	17	
			18-2	なわとび・逆上がりプロジェクト	18	
			18-3	あいさつ・礼儀	19	
			18-4	早寝・早起き・朝ごはん	20	
	19	「放課後子ども教室」を増殖します。(2年以内)			21	
	20	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)	20-1	児童相談所の充実	22	2
			20-2	保健所の充実	23	3
	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。(4年以内)			24	
	22	子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)			25	4
	23	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(4年以内)	23-1	1日保育士体験	26	
23-2			子育て支援センターの活用	27		
23-3			ワークライフバランスの認知度向上	28		
23-4			親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策	29		

≪第3回 7月8日(金) 開催分≫

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング 事業数
子ども (24)	24	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)	24-1	認可保育所	30	5
			24-2	ナースリールーム・家庭保育室	31	6
			24-3	放課後児童クラブ	32	7
	25	北九州方式を参考とした小児救急体制や、産科救急体制を整備します。(4年以内)	25-1	小児救急	33	
			25-2	産科救急	34	
	26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。(4年以内)			35	
	27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。(4年以内)			36	
	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。(4年以内)			37	
	29	学校教育における食育を推進します。(4年以内)			38	
	30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)			39	

(*6/24開催の第2回委員会において、当初案でヒアリング対象となっていた「情報公開日本-No.9-1~9-6」の6事業がヒアリング対象外とされ、「No.15 マッチングファンド制度創設」と「No.22 子ども博物館構想」の2事業が追加でヒアリング対象となりました。)

次回 ヒアリング候補事業追加・削除取りまとめ一覧

《第4回 7月22日(金) 開催分》

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング ○(追加) ×(削除)			
						当初案 による 事業数	延原 委員	三浦 委員	福崎 委員
高齢者 (7)	31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)			1			○	○
	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。(すぐ)			2				
	33	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)	33-1	高齢者サロン	3	1			×
			33-2	介護者サロン	4	2			×
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)			5	3			
	35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)			6	4	×		
	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)			7				
健康 ・安全・安心 (8/17)	37	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～(4年以内)	37-1	食生活・運動	8				
			37-2	介護予防	9			○	
	38	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(4年以内)	38-1	多目的広場整備方針の決定	10	5		×	
			38-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放	11	6		×	
			38-3	民有地を活用した多目的広場の整備	12	7		×	
			38-4	「(仮称)スポーツふれあい広場」の整備	13	8		×	
			38-5	大学との連携による多目的広場の整備	14	9		×	
			38-6	農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	15	10		×	

《ヒアリング対象項目追加理由》

- ・ No.3 1 介護する人への支援体制を充実
(福崎委員) 制度の有効度など、様子を知らない事業なので。

(三浦委員) 3 3-1, 2 と合わせ介護者支援の一連の取り組みとしてヒアリング対象に加えてはどうか。
- ・ No.3 7 食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～
《37-2 介護予防》

(三浦委員) 前年度の高評価から大幅下落の原因は？

《ヒアリング対象項目削除理由》

- ・ No.3 3 空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。
《33-1 介護者サロン、33-2 高齢者サロン》

(福崎委員) 成功例として知っている事業なので。
- ・ No.3 8 遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。
《38-1～38-6》(多目的広場倍増プロジェクト)

(三浦委員) 数値目標に基づく評価が容易で、強いてヒアリングの必要性を感じない。

《第5回 8月5日(金) 開催分》

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
健康 ・安全・安心 (9/17)	39	万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)	39-1	総合防災情報システムの構築	1	1
			39-2	危機事案発生時の初動体制の確保	2	2
			39-3	防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	3	3
			39-4	災害時要援護者への支援	4	
			39-5	マンホールトイレの整備	5	
			39-6	新型インフルエンザ対策	6	
			39-7	地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進	7	
	40	民間住宅の耐震化補助事業を拡充します。(すぐ)			8	
	41	障害者自立支援法の時限措置終了後も、市独自の負担軽減策を継続します。(すぐ)			9	
環境 ・まちづくり (11/25)	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。(4年以内)			10	
	43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)			11	
	44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。(4年以内)			12	4
	45	さいたま新都心のサッカープラザ計画は白紙撤回します。(すぐ)			13	
	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。(すぐ)			14	
	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)			15	
	48	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)	48-1	公園の芝生化	16	5
			48-2	学校の芝生化	17	6
			48-3	保育園の芝生化	18	7
			48-4	学校の緑のカーテン	19	8
			48-5	公共施設・家庭の緑のカーテン	20	9
48-6			公共施設の緑化	21	10	
48-7			民間建築物の緑化	22	11	
48-8			花と緑でいっぱい・区の花の制定	23	12	

≪第6回 8月19日(金) 開催分≫

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	
環境 ・まちづくり (11/25)	49	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)	49-1	見沼基本計画の策定	1	1	
			49-2	歴史的遺産・自然環境の活用	2	2	
			49-3	教育ファームの実施	3	3	
			49-4	市民農園の整備	4	4	
			49-5	東宮下調節池の広場整備	5	5	
			49-6	高沼用水路の整備	6	6	
	50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。(4年以内)			7		
	51	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)	51-1	都市公園の整備	8		
			51-2	暮らしの道路・スマイルロードの整備	9		
			51-3	下水道の整備	10		
	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。(4年以内)			11		
	経済・雇用 (2/20)	53	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(すぐ)	53-1	セーフティネットの構築	12	7
				53-2	ステップアップの取組	13	8

≪第7回 8月30日(火) 開催分≫

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
経済・雇用 (18/20)	54	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	54-1	ものづくり企業支援事業	1	1
			54-2	テクニカルブランド企業認証事業	2	2
			54-3	戦略的企業誘致	3	3
			54-4	産学連携によるイノベーション創出	4	4
			54-5	新規就農者支援事業	5	5
			54-6	事業所内保育施設推進事業	6	6
			54-7	介護福祉士資格取得支援	7	7
			54-8	ホームヘルパー2級資格取得支援	8	8
			54-9	福祉介護人材の養成確保	9	9
			54-10	ものづくり人材支援事業	10	10
			54-11	マッチング事業	11	11
	55	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。(4年以内)			12	
	56	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	56-1	人材育成支援	13	
			56-2	創業環境支援	14	
	57	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(4年以内)	57-1	コミュニティビジネス育成事業	15	
			57-2	コミュニティビジネス促進事業	16	
	58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。(4年以内)			17	
	59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。(4年以内)			18	
地域間対立を 越えて (3)	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。(4年以内)			19	12
	61	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。(4年以内)			20	13
	62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。(4年以内)			21	